（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松枯れの青柳城山再生プロジェクト
事業主体 （連絡先）	木曜会 ０９０－２５２９－４２１１（関川）
事業区分	（５）環境保全・景観形成　（６）ア特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	５３９，７６９円（うち支援金：３７９，０００円）

事業内容

・青柳城山登山道の整備や「里山整備中」の看板設置を実施した。7 月 27 日には、枯損木のチップ敷き等里山整備のワークショップイベントも開催した。

・ホームページを立ち上げ、活動内容を広報した。

・8 月 11 日には、「第 3 回里山シンポジウム」を NPO 法人善光寺街道歩き旅推進局と共同開催した。山城の遺構を巡った後、青柳公民館にて「守って活かす青柳城址」をテーマに車座集会を行った。

・登山ガイド養成テキストを作成し、9 月 22 日に案内人養成講座を開催した。

・9 月 27 日、10 月 19 日、11 月 16 日（計 3 回）に、「御城印付き青柳城山ガイドツアー」を開催し、城山ガイドを実践、オリジナルの御城印を提供した。

【　ガイドツアー（9／27）】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

・関係人口の創出。里山整備の外部ボランティア延べ人数 23 人（目標数値延べ 10 人）。
・登山者 0 人→「里山シンポジウム」参加者 21 人（目標数値 20 人）・青柳城山ガイドツアー参加者 42 人（目標数値 60 人）。
・里山再生やイベント開催による告知等、信濃毎日新聞と市民タイムスに記事として掲載された。また、ホームページの閲覧数は 120 回（目標数値 100 回）。
・里山整備利用促進協議会設立は機運が盛り上がらず、本年度中の設立には至らなかった。

【目標・ねらい】

① 関係人口の創出
② 登山者０からの増大
③ ホームページによる広報（閲覧数 100 回）
④ 里山整備利用推進協議会設立

※自己評価【　C　】

【理由】
登山道整備からシンポジウムに及んだ外部人材との交流は有効であった。それに対し、地元の盛り上がりに欠けた点は、大きな課題として残った。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

地元青柳区及び村との協議を重ね、必要な整備計画を立てたい。
案内人養成による人材育成に注力したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある